

(様式2)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 27 年 6 月 29 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3495000022		
法人名	社会福祉法人 誠心福社会		
事業所名	誠心園グループホーム		
所在地	広島県江田島市江田島町宮ノ原三丁目18番66号 (電話) 0823-42-6177		
自己評価作成日	平成27年4月24日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	
-------------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	(社福) 広島県社会福祉協議会
所在地	広島県広島市南区比治山本町12-2
訪問調査日	平成27年5月12日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

<p>木の匂いのする暖かさやなつかしさを感じさせる家をコンセプトに、自然のエネルギーを利用するジオパワーシステムを導入したエコ住宅を創りました。まわりの庭では、野菜づくりや季節の果物、さくらんぼ・柿・いちじく・栗等を収穫していただき、職員と利用者様と一緒にジャムに加工したりして、季節を体感していただくことを大切にしています。</p> <p>ときおり気軽に外食や外出を、あたかも自宅から出かけられる様なスタンスで楽しめることもあり、誠心園グループホームの目指す「ふつうであたりまえの生活」を職員目線ではなく、利用者様自身の「ふつうであたりまえの生活」を追求することに努力しています。</p> <p>その毎日を支えるスタッフがリーダーとともに、なごやかな和を保っていることこそが、利用者様とのゆったりとした空間づくりの大きな要因なのではないでしょうか。スタッフ一同、グループホームと共に成長していきたいと思う毎日です。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>誠心園グループホーム（以下、ホーム）は、社会福祉法人誠心福社会が運営するホームです。瀬戸内海の自然に囲まれた地域にあり、蜜柑の花の香りや実りの風景が楽しめる環境です。ホームでは、外出や行事の時に職員を手厚く配置し、入居者本位の支援ができるよう取り組まれています。職員は入居者とコミュニケーションを深め、一人ひとりの気持ちに寄り添いながら、日々、笑顔で過ごせるように個別の支援に努められています。医療面において、日頃から法人が運営する施設と連携を図り、昼夜を問わず対応ができる仕組みが整っており、健康管理面で安心感があります。</p> <p>また、管理者は、6か月ごとにスタッフと個人面談を行い、業務目標の確認や意見を聞き、職員の提案等をサービスの質の向上に繋げておられます。</p> <p>さらに、ホームでは介護福祉士の有資格者が多く、職員の資格取得やスキルの向上に向けて、職員同士が協力し合う関係づくりが整えられています。</p>

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営（1ユニット）					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	2年前、「普通であたり前の生活を」を第一に、利用者主体の事業所として新たに職員全員で話し合い、実践に向けて日々取り組んでいる。	職員アンケートを基に、全体で話し合いながら理念を作成されています。職員は、入居者一人ひとりの「当たり前」を探し、ミーティングや日誌で共有されています。困難な状況が生じた場合は、理念に立ち戻り、家族ならどうするかを念頭に理念の実践に努められています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域の方々とは、挨拶や気軽に声をかけ合う関係ができています。事業所の行事には、近隣の方や保育園の園児、職員の皆さんと一緒に楽しみ交流を持っている。	敷地内の花の植えつけや草取り、水やりなど、近隣住民の協力を得ておられます。ホームの餅つき行事には幼稚園児の参加があり、入居者も一緒に楽しんでいます。入居者は職員と一緒に、公民館祭りや地域の運動会、幼稚園の発表会、青年の家の祭りに参加するなど、活発に交流されています。また、法人が運営する施設や事業所との交流にも取り組まれています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	町内で開かれている老人クラブ主催の集いに出向き、認知症の方への支援の取り組みについて説明している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1度の実施で、行政担当者・地域包括支援センター・地区役員・利用者・家族の方。会議では、活動状況や問題点などを報告して意見や助言をいただきサービス向上に活かしている。	地域からは、地区長、消防団分団長、民生委員の参加があります。全家族へ開催案内を行い、周知されています。会議では、報告とともに外出先や行事の提案など、活発に意見交換されています。参加者の意見をきっかけに、母の日にカーネーションを入居者へ手渡すなど、運営に反映されています。また、年1回、市職員や地域包括支援センター職員を講師に、会議を兼ねた勉強会も実施されています。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	事業運営をする上で判断に困ったことや疑問点があった時など市の担当者に連絡を取り、必要に応じて指導をしていただいている。	運営推進会議に、年2回、市職員の出席があり、助言を得ておられます。介護保険制度の疑問点など、市役所に出向いて相談することもあり、協力関係を築くよう努力されています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>法人全体で身体拘束廃止委員会を設置し、年2回の全体研修を行っている。事業所内にて身体拘束をしないケアの理解を深め、職員間で共有して取り組んでいる。</p>	<p>日中は、玄関を施錠していません。居室の掃出し窓の鍵については、安全面への配慮から家族の同意を得て施錠されています。現在、緊急時の避難も考慮しながら施錠すべきかどうか検討されています。また、言葉の拘束についても注意を払い、ミーティングなどで職員全体が共通の理解を深めるよう取り組まれています。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>法人全体で虐待防止委員会を設置し、年2回の全体研修を行っている、他に、業務の中で虐待となっている事がないか、職員同士で話し合っている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>法人全体で研修会を開いている。事業所ではマニュアルを利用し、ミーティングを設けて勉強会を行っている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>入居前には、必ずご本人に見学をしていただくようにしている。時には在宅時のケアマネージャーと連携を取り、家族の不安や疑問の解消に努めている。また、退去時にも同様に十分に説明を行っている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>家族からの意思・要望については、気軽にいつでも話していただけるような雰囲気作りに配慮している。出された意見等についてはミーティングや運営推進会議を通して検討し運営に反映させている。</p>	<p>面会時や家族交流会で意見を聞かれています。職員から家族へ積極的に話しかけるなど、意見が言いやすい環境づくりに努めておられます。玄関アプローチの枕木の張り替えや手づくりピザの提案、職員の名前が分かるよう名札の着用など、家族から出された意見や提案をケアや運営に反映されています。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	運営等に関する職員からの意見や提案については、随時その機会をもうけ、反映のための努力をしている。	週1回のミーティングや朝夕の申し送りで意見交換し、出された意見は業務連絡票で共有されるなど、普段から意見が言いやすい環境づくりに努めておられます。職員からは、入居者の状況に合わせて早出勤務時間の変更について提案が出されて、就業規則を改定し、運営に反映した事例があります。職員は、法人の身体拘束、感染症、事故防止等の各委員会に所属し、意見や提案が伝えやすい環境が整えられています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	法人独自の評価があり、目標や評価を見直す機会がある。個人面接を行ったり、資格取得に向けた支援を行っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員の経験年数や力量に合わせ、外部研修への参加を実施している。また、法人全体の研修委員会にも積極的に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	地域で開催される研修や勉強会等に参加して同業者とのネットワークを広げサービスの質の向上につなげている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	家族や在宅時のケアマネージャーからの情報を参考にし、とにかく利用者の想いに耳を傾け信頼関係が築けるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居に至るまでの、家族の思いや家庭の事情等を十分にうかがいながら意見や要望をサービス提供に活かしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談内容を整理し、必要な他サービスも検討しながら、本人・家族にとって最適な方法か検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	日々の関わりの中で、一緒にテレビを見たり、ソファーに座り昔の話を聞いたり、本人の体調に合わせて軽作業等と一緒に取り組むことで、支え合う関係が築かれている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	職員は、面会に来られる家族と利用者との間に入り、家族の思いを利用者に伝えたり、家族と職員が一緒になって利用者を支えていることを理解していただけるよう努力している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	親戚や友人が面会に来られたり、行きつけの美容院へ出かけたりと、関係が途切れないようにしている。お盆やお正月には帰宅できるように家族に声かけしている。	家族の面会が頻回にあります。入居者は、家族の協力を得て、行きつけの美容院や墓参りに出かけておられます。家族の対応が難しい場合は、ホームで支援されます。ドライブを兼ねて自宅の様子を見に行くこともあります。また、家族に外出・外泊の声かけをするなど、馴染みの関係が途切れない支援に努めておられます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	本人の身体状況や性格を考慮し、テーブルの位置や居室を工夫している。職員が間に入り、孤立しないように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退去後も可能な限り、家族の相談にのり継続的に関わりを持つように努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人からよく話を聞いたり、表情や行動で把握するように努めている。面会時、家族や親せき・知人からも様子を伺い情報収集に努めている。	日頃の会話や生活歴などから思いや意向を把握し、日常生活や身だしなみ、外出など、本人本位を基本に個別ケアの検討をされています。畑を耕したり草取りをしたり、編み物、生け花を楽しんだり、本人の思いと自発性を大切にした支援に取り組まれています。現在、家族の協力で自分史を作成し、ケアに反映させる取り組みを始められています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前に、情報収集(家族やケアマネ)を行い生活歴や思いを把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日誌に排泄、入浴、睡眠、食事量等を記入。1日のリズム、心身状況を把握、また日常の観察で能力の全てを把握し、安心して暮らせるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>本人・家族・スタッフの意見をまとめて計画を作成、必要に応じてカンファレンスを行いながら、計画修正を行っている。定期的なモニタリングを行い計画に反映させている。</p>	<p>モニタリングは、6か月ごとにケアマネジャーが実施しています。介護計画は、変化があれば、その都度、見直しされています。家族や医療機関の意見を聞きながら、必要に応じてカンファレンスを開催されています。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>毎日、個別の記録を行い、申し送りを通して情報も共有しているため、ケアプランにいかすことができる。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>隣接している特養やデイサービスの趣味活動に参加したり、本人や家族の状況等に合わせ、意向を聞きながら柔軟に対応している。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>消防署立会いの避難訓練の実施、保育園児を招いての餅つき、ボランティアの方による手芸などをしていただいている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>本人・家族からの希望を大切に、かかりつけ医への受診支援を行っている。また、週に1回看護師による健康管理をおこない、医療機関との連携を図っている。</p>	<p>入居前からのかかりつけ医で受診する入居者がおられます。家族の付き添いが基本ですが、対応が困難な場合はホームで支援されています。協力医療機関や法人の施設と連携し、健康管理面で安心できる体制を整えておられます。また、2週間ごとに歯科医の往診もあります。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>利用者の体調の変化や異常発生時には、直ちに事業所内の看護師に相談することができる。また必要に応じて隣接する特養の看護師と連絡・相談し連携を取り、健康管理に努めている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時にはスタッフが付添い、病院関係者との情報交換を密にし、また退院に向けても同様に連携を取っている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>重度化に備え、家族・主治医と話し合いを行い、特別養護老人ホーム入所の申し込み等を行っている。また、急変時に備え、特養と連携を図り、昼夜を問わず看護師と連絡が取れる体制がある。</p>	<p>重度化した場合は、家族の意向を聞き、ホームでできることを説明したうえで方針を決めておられます。法人が運営する施設に繋ぐなど、家族の希望に添った支援に努めておられます。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>急変時は医師・看護師に連絡し指示を受けている。救急手当・心肺蘇生の方法等を消防署より職員全員で受けたいと思っている。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>消防署立会いの避難訓練の他に事業所独自で訓練を実施している(合計4回)。運営推進会議に参加をいただき、災害時には地域の消防団員の協力を得ようとしている。</p>	<p>年3回、避難訓練を実施されています。運営推進会議と同一日に実施した際は、地域住民に避難誘導を協力してもらい、消防分団長に評価を得るなど、実践的な訓練が行われています。また、帰宅願望の強い入居者への見守りについても地域住民と検討されています。また、高台にある法人施設を地域の一時避難場所として利用でき、住民にも情報提供されています。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	職員は、利用者一人一人に対し、意思と尊厳を大切に、表情や言動に気をつけ優しく敬意のある対応ができるよう心がけ日々研鑽している。	居室にトイレがあり、排泄時の羞恥心に配慮された環境です。職員は、入居者を尊重し、プライドを傷つけない話し方に心がけておられます。管理者は、職員の言葉使いや身だしなみ等で気づきがあれば指導を行い、職員全体が共通の意識を持つよう取り組まれています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日頃から利用者と過ごす時間を多く持つよう心掛けて、会話の内容や表情から、思いや希望をくみ取ったり、ゆっくり話せるような雰囲気作りを心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者一人一人の気分や体調等に配慮しながら、利用者の思いを第一に考え、その生活のペースを乱したり、押しつけにならないようにできる限り個別性重視の支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	服装等は自分で選んだり、職員と一緒に考えることがある。馴染みの美容院へ行く利用者もあるが、利用者の身体状況も考え訪問理美容も取り入れている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	利用者の栄養バランスを考えると、季節感を取り入れ旬のものを提供するよう心がけている。また、本人の食べる意欲を大切に、自力でゆっくりと食事ができるよう配慮し、片付けなども利用者職員と一緒にやっている。	食事は、法人の施設で調理されたものを提供されています。ご飯と汁は旬の野菜を利用し、ホームで調理されています。時には、寿司や手打ちうどん、そうめん流しをしたり、おはぎ、柏餅など季節感のあるおやつを作ったり、食事が楽しみの一つとなるよう工夫されています。訪問日は、職員も同じテーブルを囲み、談笑しながら和やかに食事をされていました。食後は、積極的に下膳を手伝う入居者の姿も伺えました。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	利用者の希望や状態に合わせ、量や形(キザミ・ムース)を調整している。必要に応じて、食事介助をしたり、こまめな水分補給を行い、摂取量などは詳細に記載している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	食後の口腔ケアを実施している。自分で行えるところはしていただき後は介助している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	あくまでもトイレでの排泄を目指し、利用者一人一人の排泄間隔を把握している。認知症の進行に伴い排泄そのものやトイレの場所がわからなくなっている利用者については、常に声かけトイレ誘導を行っている。	各居室に、車いすも対応可能なトイレが備えつけられています。入浴時は、脱衣室に隣して設置されたトイレを使用されます。便意尿意があまりない入居者は、排泄チェック表で確認し、さりげない誘導や定時誘導するなど、自立に向けて支援されています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	水分をしっかり摂っていただいたり、食生活や運動なども工夫している。排便を記録し、状況把握している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	身体レベルや希望により日程を決めているが、本人の思いや状態変化もあるので、できるだけ曜日にとらわれず入浴していただく場合もある。	浴室には、乾燥機とエアコンが設置されています。浴槽は木の香りがする檜風呂です。希望や体調により、週2~3回、見守り介助浴が行われています。1対1の入浴なので、コミュニケーションを取りながらゆっくり楽しんでいます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。</p>	<p>本人の望む場所で、ゆっくり休息がとれるよう、一人一人に合った対応をしている。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>主治医の管理・指示の下に服薬介助・確認を行っている。症状の変化については医師に、服薬等の質問は薬剤師に相談している。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。</p>	<p>一人一人の能力、趣味、生活歴をいかし、カラオケ・手芸・散歩・草取り・洗濯たみ・ドライブへ出かける等の支援をしている。また、さくらんぼやイチジク・ミカン・柿・栗などの果樹を植え季節毎の収穫を楽しんでいる。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>利用者の希望に応じて、散歩・買い物・ドライブ(花見・催事見物)に出かけている。また、帰宅願望がある時も、外出等をし、時間をかけて対応している。</p>	<p>気候の良い日は、ホーム周辺を散歩されています。法人施設や隣接するデイサービスへ出かける機会を多く持たれています。年間行事計画の実施と共に、希望に合わせて臨機応変にドライブがてら花見や自宅の様子を見に出かけるなどの支援をされています。年1回の遠足行事では、家族へ参加の呼びかけを行い、交流を楽しまれています。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	<p>金銭管理が可能で所持を希望される方には、助言しながら使っていただいている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	本人の希望や必要に応じて、家族や知人に電話をしたり、いただいた贈り物のお礼状を出すお手伝いをしている。携帯電話を所持し家族と連絡をしている方もいる。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	建物には自然エネルギーを有効的に取り入れ自然界に近い形で暮らせるジオパワーシステムを導入。共有空間は天井高で広く明るくゆったりとしたスペースになっており、居心地良く過ごしている。季節ごとにその時期に合った飾り付けをし、季節を確認できるように働きかけている。	玄関前は、枕木が敷かれた並木道になっています。中庭からは、共用フロアや居室に沿った廊下など全体を見渡すことができます。また、中央の全面が大きな窓で、自然の採光が十分に取り入れられ、明るく開放感と清潔感があります。リビングは、入居者が過ごしやすいようにテーブルの位置や配席に工夫されています。入居者が落ち着いて生活できるよう、ロッキングチェアや椅子を置くなど、居心地良く過ごせるように工夫されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	玄関フロアのロッキングチェアやホール内にはソファや椅子を置いたり、畳の間など思い思いに過ごせるような工夫をしている。また気の合った方同士でそれぞれの居室を行き来している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	自宅から使い慣れた家具を持参され、家族の写真や植物を置いて安心して過ごせるようにしている。壁には手作りカレンダーやお誕生祝いの色紙などを飾っている。	掃出し窓と障子がある和風の広い個室です。居室には、トイレ、洗面台、エアコンが備えつけられています。ジオパワーに加えて、冬の冷えに備えてヒーターを設置されています。入居者は馴染みの品を持ち込んだり花を飾ったり、好みに応じて居心地良く過ごせるように工夫されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	安全・安心を第一に、その人らしい生活を尊重し「できること」や「わかること」については、その人のレベルに応じて能力をいかしてもらっている。残存機能が低下することなく自立した生活が送られるよう支援している。		

V アウトカム項目 (1ユニット)			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらい ③利用者の3分の1くらい ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営（2ユニット）					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	2年前、「普通であたり前の生活を」を第一に、利用者主体の事業所として新たに職員全員で話し合い、実践に向けて日々取り組んでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域の方々とは、挨拶や気軽に声をかけ合う関係ができています。事業所の行事には、近隣の方や保育園の園児、職員の皆さんと一緒に楽しみ交流を持っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	町内で開かれている老人クラブ主催の集いに出向き、認知症の方への支援の取り組みについて説明している。。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1度の実施で、行政担当者・地域包括支援センター・地区役員・利用者・家族の方。会議では、活動状況や問題点などを報告して意見や助言をいただきサービス向上に活かしている。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	事業運営をする上で判断に困ったことや疑問点があった時など市の担当者に連絡を取り、必要に応じて指導をしていただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	法人全体で身体拘束廃止委員会を設置し、年2回の全体研修を行っている。事業所内にて身体拘束をしないケアの理解を深め、職員間で共有して取り組んでいる。		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	法人全体で虐待防止委員会を設置し、年2回の全体研修を行っている。他に、業務の中で虐待となっている事がないか、職員同士で話し合っている。		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	法人全体で研修会を開いている。事業所ではマニュアルを利用し、ミーティングを設けて勉強会を行っている。		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	入居前には、必ずご本人に見学をさせていただきようとしている。時には在宅時のケアマネージャーと連携を取り、家族の不安や疑問の解消に努めている。また、退去時にも同様に十分に説明を行っている。		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	家族からの意思・要望については、気軽にいつでも話していただけるような雰囲気作りに配慮している。出された意見等についてはミーティングや運営推進会議を通して検討し運営に反映させている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>運営等に関する職員からの意見や提案については、随時その機会をもうけ、反映のための努力をしている。</p>		
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>法人独自の評価があり、目標や評価を見直す機会がある。個人面接を行ったり、資格取得に向けた支援を行っている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>職員の経験年数や力量に合わせ、外部研修への参加を実施している。また、法人全体の研修委員会に積極的に参加している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	<p>地域で開催される研修や勉強会等に参加して同業者とのネットワークを広げサービスの質の向上につなげている。</p>		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	<p>家族や在宅時のケアマネージャーからの情報を参考にし、とにかく利用者の想いに耳を傾け信頼関係が築けるように努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>入居に至るまでの、家族の思いや家庭の事情等を十分にうかがいながら意見や要望をサービス提供に活かしている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>相談内容を整理し、必要な他サービスも検討しながら、本人・家族にとって最適な方法か検討している。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>日々の関わりの中で、一緒にテレビを見たり、ソファーに座り昔の話を聞いたり、本人の体調に合わせ軽作業等と一緒に取り組むことで、支え合う関係が築かれている。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>職員は、面会に来られる家族と利用者との間に入り、家族の思いを利用者に伝えたり、家族と職員が一緒になって利用者を支えていることを理解していただけるよう努力している。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>親戚や友人が面会に来られたり、行きつけの美容院へ出かけたりと、関係が途切れないようにしている。お盆やお正月には帰宅できるよう家族に声かけしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	本人の身体状況や性格を考慮し、テーブルの位置や居室を工夫している。職員が間に入り、孤立しないように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退去後も可能な限り、家族の相談にのり継続的に関わりを持つように努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人からよく話を聞いたり、表情や行動で把握するように努めている。面会時、家族や親せき・知人からも様子を伺い情報収集に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前に、情報収集(家族やケアマネ)を行い生活歴や思いを把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日誌に排泄、入浴、睡眠、食事量等を記入。1日のリズム、心身状況を把握、また日常の観察で能力の全てを把握し、安心して暮らせるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>本人・家族・スタッフの意見をまとめて計画を作成、必要に応じてカンファレンスを行いながら、計画修正を行っている。定期的にもモニタリングを行い計画に反映させている。</p>		
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>毎日、個別の記録を行い、申し送りを通して情報も共有しているため、ケアプランにいかすことができる。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>隣接している特養やデイサービスの趣味活動に参加したり、本人や家族の状況等に合わせ、意向を聞きながら柔軟に対応している。。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>消防署立会いの避難訓練の実施、保育園児を招いての餅つき、ボランティアの方による手芸などをしていただいている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>本人・家族からの希望を大切に、かかりつけ医への受診支援を行っている。また、週に1回看護師による健康管理をおこない、医療機関との連携を図っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>利用者の体調の変化や異常発生時には、直ちに事業所内の看護師に相談することができる。また必要に応じて隣接する特養の看護師と連絡・相談し連携を取り、健康管理に努めている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時にはスタッフが付添い、病院関係者との情報交換を密にし、また退院に向けても同様に連携を取っている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>重度化や終末期には対応していないことを入居前から家族に説明している。。重度化した時は、家族・主治医と話し合いを行い、方針を決めている。</p>		
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>急変時は医師・看護師に連絡し指示を受けている。救急手当・心肺蘇生の方法等を消防署より職員全員で受けたいと思っている。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>消防署立会いの避難訓練の他に事業所独自で訓練を実施している(合計4回)。運営推進会議に参加をいただき、災害時には地域の消防団員の協力を得るようにしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	職員は、利用者一人一人に対し、常にその意思と尊厳を大切に、優しく敬意のある対応に配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日頃から利用者とは過ごす時間を多く持つようにして、会話の内容や表情から、思いや希望をくみ取ったり、ゆっくり話せるような雰囲気作りを心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者一人一人の気分や体調等に配慮しながら、利用者の思いを第一に考え、その生活のペースを乱したり、押しつけにならないようにできる限り個別性重視の支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	服装等は自分で選んだり、職員と一緒に考えることがある。馴染みの美容院へ行く利用者もあるが、利用者の身体状況も考え訪問理美容も取り入れている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	利用者の嗜好に配慮し、栄養のバランスを考えた献立となっている。本人の食べる意欲を大切にしながら、基本的には自力でゆっくと食事ができる支援に努めている。片付けなども利用者と職員が行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>利用者の希望や状態に合わせ、量や形（キザミ・ムース）を調整している。必要に応じて、食事介助をしたり、こまめな水分補給を行い、摂取量などは詳細に記載している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>食後の口腔ケアを実施している。自分で行えるところはしていただき後は介助している。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>あくまでもトイレでの排泄を目指し、利用者一人一人の排泄間隔を把握している。認知症の進行に伴い排泄そのものやトイレの場所がわからなくなっている利用者については、常に声かけしトイレ誘導を行っている。</p>		
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>水分をしっかり摂っていただいたり，食生活や運動なども工夫している。排便を記録し、状況把握している。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>身体レベルや希望により日程を決めているが、本人の思いや状態変化もあるので、できるだけ曜日にとらわれず入浴していただく場合もある。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。</p>	<p>本人の望む場所で、ゆっくり休息がとれるよう、一人一人に合った対応をしている。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>主治医の管理・指示の下に服薬介助・確認を行っている。症状の変化については医師に、服薬等の質問は薬剤師に相談している。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。</p>	<p>一人一人の能力、趣味、生活歴をいかし、カラオケ・手芸・散歩・草取り・洗濯たたみ・ドライブへ出かける等の支援をしている。本人の意欲向上や自信につながり、負担にならないように配慮し、役割が持てるよう支援している。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>利用者の希望に応じて、散歩・買い物・ドライブ(花見・催事見物)に出かけている。また、帰宅願望がある時も、外出等をし、時間をかけて対応している。</p>		
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	<p>金銭管理が可能で所持を希望される方には、助言しながら使っていただいている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>本人の希望や必要に応じて、家族や知人に電話をしたり、いただいた贈り物のお礼状を出すお手伝いをしている。携帯電話を所持し家族と連絡をしている方もいる。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>共有空間は広くゆったりとしたスペースで、車椅子の移動がスムーズにできる。利用者一人一人が好きな場所でゆっくりと過ごすことができるよう工夫している。キッチンでの食事作りや中庭・外庭の草木を見ることができ、いつでも五感に十分な刺激を受けることができ生活感にあふれている。</p>		
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>玄関フロアのロッキングチェアやホール内にはソファや椅子を置いたり、畳の間など思い思いに過ごせるような工夫をしている。また気の合った方向士でそれぞれの居室を行き来している。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>自宅から使い慣れた家具を持参され、家族の写真や植物を置いて心地良く過ごしていただけるようにしている。冷蔵庫を持参したり、テレビを持参して好みの番組を自室で楽しまれている方も多くいる。</p>		
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>安全・安心を第一に、その人らしい生活を尊重し「できること」や「わかること」については、その人のレベルに応じて能力をいかしてもらっている。残存機能が低下することなく自立した生活が送られるよう支援している。</p>		

V アウトカム項目 (2ユニット)			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらい ③利用者の3分の1くらい ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き生きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式3)

2 目標達成計画

事業所名 誠心園グループホーム

作成日 平成 27 年 7 月 31 日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1		入居者に対して, 配慮に欠ける言動が職員から見られる。	どんな場面でも適切に対応することができる。	入居者の生活背景を理解すると共に, 接遇技術の研修を行い, 適切な対応ができるよう実践と指導をかさねていく。	6か月
2		家族の要望等が伝わっていないことがある。	連絡事項を全ての職員に伝える努力をすると共に, 情報収集する姿勢を培い, 家族や入居者に不安感を抱かせない。	必要事項は書面に記入し, 全職員が連絡帳や行事予定表を毎日確認する。ミーティング等口頭でも再度伝える。	1か月
3		自力歩行ができるできないに関わらず, 全ての入居者が外出する機会を持ち, 楽しい時間を持ってほしい。	入居者全員が, 能力に応じて外出する機会を持っていただく。	行事予定表を作成し, 計画的に外出する機会を作る。	6か月
4					
5					

注1) 項目番号欄には, 自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は, 行を追加すること。